

アマダイ通信NO. 134

(Tile fish network letter)

2020年 元旦

知人・友人各位

戦禍のアフガニスタンで医療・奉仕活動に従事する中村哲医師が亡くなる。🐟と同年生まれ、九大在学中は全共闘の仲間として活動、医師となり徳洲会などで活躍、アフガニスタンへ。医療だけでは人を救えない、水と緑が必要と、灌漑水路を掘り、農地を広げ、学校を作り、現地の生活向上に努める。「人間は類的存在」、「一人は万人のために！万人は一人のために！」と叫んだ全共闘の理念の体現そのもの。銃撃されての死も覚悟の上だったろう。安田講堂攻防戦から半世紀、先日、駒場のゼミの学生からインタビューを受ける。歴史になった全共闘、団塊の世代の遺言として仲間と「続・全共闘白書」（情況出版）を刊行中。記念すべき1月18日（土）5時、学生会館で出版記念会。語り合おう！命ある間に！

◎全共闘50周年、失敗したソ連の開発独裁、学ぶ中国

11月23日（土）東大の駒場祭。雨なのにキャンパスは若い女の子でごった返す。雨の上、「全共闘50周年」の固い企画、嬉しいことに一緒にやりたいという学生がいて共催するが、準備不足でガラガラだろうと覚悟。出入りも入れて50人ほど。丁度10年前の駒場祭で立花高のゼミの学生と東大闘争をテーマにシンポジウム。大きな階段教室で、随分客が多かった。3倍くらいいたか？その時の学生でNHK報道部や共同通信でバリバリ働く若者も参加。終わって学生と若者8人、大人7人で、渋谷の中華料理屋で打ち上げ。

シンポジウムの会場から、薦める本が一冊あるとすれば？と問われ、躊躇なくマルクスの「共産党宣言」をあげる。生産手段の私的所有を禁じ、能力に応じて働き、働きに応じて取る「社会主義社会」へ！コンピューターなど機械の発達によって人間は単純労働から解放され、創造的仕事に従事、疎外からも解放され、生産性も向上、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」共産主義社会へ！しかし、資本主義社会から社会主義社会への移行、社会主義社会から共産主義社会への発展は如何にして可能か？その具体的方法についてマルクスは語らず、後世に委ねる。

マルクスは又、社会主義革命は資本主義とその政治形体としての民主主義の発展の延長にあるとして、発展した資本主義国家イギリスとフランスでの「世界革命」を想定するが、革命は遅れた資本主義国家ドイツでもなく、農業国ロシアで勃発。折から第一次世界大戦、資本主義列強の干渉戦争に対抗するため、革命の指導者レーニンは労農独裁という名の共産党独裁と生産手段の国有化と計画経済を進める。第一次大戦と列強による干渉という一時的な窮状の打開策としてレーニンが打ち出した共産党独裁と計画経済を、後継者のスターリンは恒久化、以降共産党による独裁政治と計画経済が社会主義の代名詞となる。それは遅れた資本主義国家としてのソ連が先進資本主義国に迫りつづけたための一種の開発独裁。半世紀以上の体制間競争を経て敗北。

ソ連の失敗に学んだ中国共産党は鄧小平の「改革開放政策」以来、外資の導入と社会主義市場経済化という新たな形の開発独裁を始め、経済的に躍進。しかし、資本主義と自由・民主はコインの裏表。習近平が自由と民主の抑圧へと舵を切った今、中国流の開発独裁は成功するのか？「共産党宣言」に立ち返り「資本主義の先」を考える必要はないのか？

それとも恐慌と格差の拡大・縮小を繰り返しながら、資本主義は永遠に続くのか？この先人類は未来永劫振り子運動を繰り返すのか？新しい螺旋運動を始めるとして、その先にどんな社会が待っているのか？

◎好事魔多し！袖触れ合うも他生の縁！

朝、食事をつくっていると、寝室の方からガタン！という物音。妻が歩行器でも倒したか？と思うが、倒れたのは妻、動けない。まさか骨折とは思わず、起こして歩行器の向きを変え、支えながら歩行器に掴まってベッドに。打撲かと思うが、半身で腰かけたまま寝室から出て来ない。全く動けない。少し動かすと痛いという。救急車を呼ぶしかない。娘には申し訳ないが孫息子と保育園に同伴出勤出来ないとメール。飼い猫の世話をし、スーツを着、ネクタイ締め、鞆を背負い、仕事の用意をして救急車に乗る。

大腿骨骨折で、高齢なので人工骨を入れる大手術になるなどとは思わず、色々考える。この間リハビリも頑張り、要介護4から3に改善、悪いなりに安定した生活が続き始めていたのだが、動けないというのであれば、別のステージに。●が面倒みれないので、施設にショートステイするか入院して貰わないといけな。ケアマネージャーに取り敢えずメール、ヘルパーさんやデイサービス、宅配の弁当も中止して貰う。近くに整形外科のある救急病院は高額差額ベッドで有名な聖ルカしかないとのこと、救急車はそこへ。全室個室で、1泊3万円以上、金持相手で、一般庶民の入院する所ではないが、救急車では仕方がない。虜われの患者だ。手術は仕方ないとして、入院してのリハビリなら、去年お世話になった聖ルカ関連病院の聖カタリナがいい。あそこも4人部屋があるが個室は2万円から。●と違って孤独を好む。短大卒で定年まで、国立病院や学校で栄養士として働いた貯えも多少はあり、毎月の年金も妻の方が多い。こんな時に使えばいい。

高齢で骨と骨がくっつくことは難しく、昔は寝たきりになったのだろうが、右大腿骨をチタン製の人工骨に替え、術後2週間ほど入院とのこと。執刀に1時間半、麻酔やら入れ2時間半くらいの手術。ベッド代1日3万円しますが、うちで治療しますか？と若い女医。同居人以外の保証人を立ててというが、出来ないと言うと、入院・治療費相当の保証金を積めとのこと。2週間分80万円を取り敢えずカードで払う。結局3万3千円の部屋に。

退院後自宅に戻って以前と同じ生活が出来るのか？施設か、リハビリ病院でリハビリに励むのか？ケアマネージャーは手術が済んだらカタリナ病院でリハビリしたほうが良いと思う、カタリナ病院の先生には伝言しました。リハビリはカタリナ病院がベストだと思います。その後はショートステイの利用を提案しますとのこと。カタリナ病院のリハビリである程度回復したら、リハビリの出来る介護施設や老健施設で様子を見て、自宅で生活出来るほどに回復したら帰宅することになるのか？そこまで回復出来るか？それが問題だ。これも終わりの始まりの、一つのプロセス。出来れば、近くに住むが働きながら子育て中の娘の世話にはならず、元気な●がなんとか見届けなくてはと思う。袖触れあうも多生の縁。

◎想像力を働かせよう！生き残るために！

同年の母方の男鹿の従弟の長男が能代で創業したグリーンクラフト（株）に請われて、顧問となる。国産木材を多用した国立競技場や、山手線の高輪ゲートウェイ駅がオープン、

国産木材に注目が集まる。他方、戦後の一斉造林で多殖された針葉樹の利用が進まず、山が荒れ洪水の原因にもなるとして、「治山」が注目される。オーナーに代わって山を治める会社の手伝いを故郷で出来るのは嬉しい。

折りからガラスカーテンウォールの会社にいた k さんが、定年退職後別の建設資材会社に転職したというので挨拶に。顧問契約して一緒に営業出来るといいですね！と別れるが、「●様、お世話さまです。上司に話しましたが、具体的にどの様に物件対応するのか。契約までの実績がないと判断は難しいとの事です。物件を絞り、しばらく、一緒に同行活動させて頂きませんか。宜しくお願いします。」とメール。

k さん、この度はお世話になります。業界によって、会社によって営業スタイルが違うからでしょうか？前職の高橋カーテンウォールでは先ず設計事務所に営業、設計を手伝って製品を設計織り込み、ゼネコンが決まると、設計事務所の後押しも得てゼネコンに採用して貰い、詳細設計から製造・施工に進むという営業スタイルでした。ただ、設計事務所の上流には発注元の施主がいて、設計事務所も施主の意向には逆らえません。ここの部分の営業を小生が担い、霞が関や都道府県などの自治体、外郭団体、JR や NTT、UR、さらには大手デベロッパーや民間会社なども含め、東大 OB のいるような所はどこでも営業しました。設計事務所のみならずゼネコンも施主の意向には逆らえず、高橋カーテンウォールのコンクリート製外壁版を使うように気を使ってくれます。

業界でそのような「川上営業」が出来るのは高橋カーテンウォールだけでした。バブルが崩壊、市場が縮む中で、PC カーテンウォール業界でも、最古参の大林組の子会社ショックベトンや鹿島、大成などスーパーゼネコンの関連会社も撤退、三好商会等独立系大手も総崩れする中で、冬の時代を耐え、関西にも工場を作り西日本にも市場を広げ一人勝ち、高橋カーテンウォールが「残存者利得」を謳歌出来ているのに●の力も少なからず寄与していると自負しています。●も自己のネットワークの持つ力に目覚めさせて頂き、営業コンサルタントとして独立、多彩なクライアントを得、20 年以上に亘って事務所を維持、仕事だけでなく、好きな活動を色々出来、それが又仕事にもつながる好循環が出来ているのは、高橋カーテンウォールでの営業活動のお陰と感謝しています。

多分、御社の上司の方々も消えて行った PC カーテンウォール業界の競合他社のトップと同様、新しい営業手法に考えが及ばないのかも知れません。昆虫や魚、爬虫類やは自らの姿に似せて棲み家をつくります。中にはヤドカリのように次々棲み家を替えて成長するものもいます。資本主義社会で会社は変わらなければ、成長しなければ淘汰されます。

一度御社の上司に会わせて頂き、若干の想像力を刺激する機会を与えて頂ければと思います。合わせて、小生にも異業種の勉強の機会を頂ければと思います。その上で、具体的な提案をお受けしたいと思います。お互い、「群盲象を撫でる」では話が始まりません。

◎孫の進路・「19 年夏、新潮文庫の 100 冊」、「はたらく細胞」

息子の中 2 の孫息子が理学療法士になりたいと言っていると知り、前号で可能性の大きい医師に、そのためには沢山本を読んで知識の裾野を広げ、読解力、論理的思考力、表現力などを研いて、効率的に学習してと記す。今年もこの 8 月 9 日から 13 日まで、娘の小学 4 年の孫娘と二人で、白神の田舎で素潜りツアーを楽しむ。今年はサザエの他にタコもみつけ大喜び。秋田に住む妹の真理子、姪の綾ちゃん、孫娘の 4 才の藍ちゃんも途中一緒。

姪の綾は秋田大の医学部を出て医者をしている。塾などには通ったこともないが、本は良く読んだと言う。塾で同じことを繰返し学習したり、重箱の隅を突つような勉強をすれば、身に付くものも多少はある。それよりも「裾野広ければ、山高し」で、読書で裾野を広げ、知識の山を築けば山はより高いものになると、爺さんは最もらしいことを言うだけで何もしていない！と、ハタと気付く。新宿に行った序に紀伊国屋書店に寄り、「19年夏、新潮文庫の100冊」を孫に送る手配。

「新潮文庫の100冊」は文学書が主。中学や高校生の頃、誰もが悩むのでしょうか、「人生如何に生きべきか？」考えます。そんな時、名作に親しむことで、色んな人生、様々な生き方があることを学びます。人生は一回限りですが、小説を読むことで、幾つもの人生を生きることが出来ます。名作の数だけ人生があります。トルストイの「復活」を読んでカチューシャとネフリュードフの生き方に感動、井上靖の「風濤」や「天平の甕」を読んでは疾風怒濤の人生に心躍らせ、水上勉の「飢餓海峡」を読んで人間の心の闇に思いを致す。先人の生き方を参考にすれば、人間関係の処理の仕方も学べ、スマートに生きられた筈。その様に行かないのが又、人生でもあり、面白いところ。つまるところ、「何のために生きるか考えるために生きるのが人生だ！」と開き直り、受験勉強に勤しんだ時期もありましたが、そんな時でも勉強に疲れた頭を癒し、リセットさせてくれたのが読書でした。それは又、読解力や論理的思考力、表現力を養ってくれたという意味で、受験にも役立つ。人生観を養うため、人間関係の処理を学ぶため、学力を研ぐため本を手にした訳ではなく、ただ面白いから、感動するから読んだだけだが、人生に思いを致し、人間関係を円滑に裁き、学力を函養するのにも結果的に役立つ。

小学低学年は学校の図書室の伝記に夢中、中学年からは「大人の」小説に手を伸ばし、親父や兄姉の読み捨てた新聞や週刊誌を漁り、長兄の北大の教養の教科書まで舐める、本の虫になっていました。自分が無意識に、自然発生的に身につけた読書習慣を、孫には意思して、意識的に獲得して欲しいという、爺さんの勝手な思い込み。息子や娘にも、手の届く所に本を置いておいた積りですが、効果は如何ばかりだったか？NHK ニュースで、「学習漫画」が大人気、漫画で専門知識を獲得、下手な大学生より博識な小学生や中学生が増えていることを知る。自分が子の親だった頃から歴史漫画はあり、「漫画で読む日本史」、「漫画世界史」などは買い揃えましたが、今は科学の分野でも最先端の知識を分かりやすく説く漫画というか、劇画、コミックが沢山あるという。

「新潮文庫の百冊」は文学、一般教養に片寄っていた、人生には幅広い教養と深い専門知識・技術があつてはじめて、よく人の役に立つことが出来る。人の役に立つことでより多くの喜びを得ることが出来る。人は人の役に立つために、そのことを喜びとするために生きているのかも知れません。大学時代の学生運動は小生の人生航路を大きく変えましたが、「人間は類的存在」、「一人は万人のために！万人は一人のために！」と東大全共闘の仲間が、占拠した安田講堂の白壁に黒と朱の墨で大書した全共闘のスローガン、普遍的価値観に辿りつけたことは何物にも代えがたい宝です。その価値観をどれほど実践しているかと問われると、恥じ入るばかりですが。

新宿の紀伊国屋やネットで探すと、思うほどにないが自然科学や社会科学の専門分野の学習漫画は確かにある。孫娘は県立大の栄養学科に通い、孫息子も医療関係に進みたいと言っているので、「はたらく細胞」(全19巻セット)と微生物の専門漫画「もやしもん」の

シリーズも送る。孫娘の専門の勉強の助けになり、孫息子が医療への関心を深める一助になればと思う。

の2度目のカンボジャ紀行「東洋の奇跡クメール王朝の最高傑作 アンコール遺跡巡り4日間」(19. 5. 1~4、トラピックス) IV

⑧「平和と幸福」に、ただ涙

いよいよアンコール・ワットに向かう。葬式がある。葬式は火葬で、金がないと取り敢えず土葬、金が出来てから骨を拾い改葬するという。葬儀の服装は上着はシャツで白、下が紺、身内は上下とも白だという。灰色の新しい橋が堀に浮かぶ。遠目にはコンクリートに見えるが、プラスチック製の浮橋。前来た時はなかったような気がする。遺跡群の中で最大規模で最も見事な建築様式を魅せるアンコール・ワット。ヒンドゥー教の宇宙観を地上に再現した宗教遺跡。12世紀前半、スールヤヴァルマン2世が「私は神と一体になる」と言って、地上の楽園の建設を開始。東西1.5km、南北1.3km、幅200mの堀で囲まれる。中央祠堂は65mの高さで、世界の中心・神々が住む須弥山を、周囲の回廊・尖塔はヒマラヤ連峰、環濠は無限の大洋を象徴するという。中央祠堂にはヴィシュヌ神が降臨、王と神が一体化する聖なる場所。三重の回廊を進むごとに、天に近づくと考えられていた。王は神となることで一般人民と自らを区別、支配を正当化。シムリアップの建物は京都の建築物の高さ規制よりしく、アンコールワットの高さを越えられない。神=王の支配の名残りか。かつて登った中央祠堂の急な階段は今は登れない。危険だからか、風化が進み、破損するからか？風雨にさらされ黒ずんだエベレストに登るのは昔の話だ。確かに急ではあったが登頂禁止とは。日本人経営のクッキー店(土産物屋)へ、ワニと亀、象の木製パズルの中から、亀のパズルを9ドルで求める

ホテルの前の川の土手に屋台。屋台を真ん中に、土手にはむしろの様なマットが敷かれ、そこで車座になり、食事を楽しむファミリー。内戦終結から30年、「平和と幸福」の感動的な風景だ。前回来た時はみかけなかった光景、目が潤む。前回は電力不足で街灯もなく、真っ暗闇で見えなかったただけなのか？ガイドに聞くと、日本の家族がファミリーレストランで夕食する感じで野外で屋台料理を楽しむという。デートするカップルも多いらしい。夕食まで少し間がある。バスの車窓から見た光景を確認しようとカメラだけを手にホテルを飛び出す。リゾートホテルの敷地は広く、その敷地に沿った現場に到達出来ず時間不足で引き返す。夕食はホテルの野外レストラン。プールサイドの舞台の民俗舞踊を觀賞しながら、朝食のメニューと余り変わり映えしないが、カンボジャ料理のバイキングを楽しむ。初めてアンコールの生ビールを味わう。値段は小瓶と同じく3ドル。お酒好きの夫婦が25ドルの白ワインをボトルで貰うのをためらう。🐟も一口乗ることにして2杯目は白ワイン。食事を終えて早速ホテルの外の土手に。ホテルの向かい側にはレジャー施設やレストラン街もあり、サーチライトが交錯、夜空を照らし、大音量の音楽も流れ賑やか。その喧騒と少し離れ、街灯の穏やかな光の下でファミリーが、仲間が、ムシロやビニールシートの上で車座になり、持参の食事や屋台の料理を楽しみ、地ビールを酌み交わす。その輪からも離れてカップルがひっそりと寄り添う。ベトナム戦争時、一方的に米軍の爆撃を受けて逃げ惑い、ポル・ポト政権時、都市から農村へと移住させられ、虐殺された市民も

数多。そのカンブチアの地、今、目の前に小市民的な「平和と幸福」の感動的な風景が広がる。若き●●が求めていたのはプチブル的平和、小市民的幸福の実現とその外延的拡大だったと結論付けることには違和感を感じながら、ただ素直に涙する。

戦後 30 年経過した日本、●●が 30 代の頃の日本は、廃墟からの復興、経済の高度成長を遂げ、一億の国民が全て中流（一億総中流）と言われるほどの豊かな生活を享受、最も成功した社会主義国家とも言われる様になった。そのスピードには比ぶべくもないが、20 年近く前のカンボジャに比べると長足の進歩。前回見たのは首都プノンペン。今回は第 2 の都市シュムリアップ。プノンペンとシュムリアップの差を考えれば、日本の戦後 30 年とカンボジャの内戦終結 30 年の差は差し引いて考える必要があるのだろう。「社会主義」を目指した筈の新生カンボジャは、フン・セン長期独裁政権の下、「社会主義市場経済」制の導入で活況を呈し、「社会主義」日本は経済のグローバル化、アングロサクソン化で経済が停滞、格差も拡大、風前の灯。近々出来ればプノンペンも再訪出来ると嬉しい。

⑨形あるものは壊れ、澱めば腐る

3 日目の朝食後、予定より 15 分早く 7 時 45 分にホテルを後にする。まずは 70 キロほど先、アンコール・ワットの東 40 キロの森の中にあるベンメリア遺跡に向かう。「天空の城ラピュタ」のモデルとなった神秘的な遺跡。アンコールワット建造前、11 世紀末から 12 世紀初頭の建造とみられるヒンドゥー教寺院。環濠の幅が約 45m、周囲 4.2km、アンコール・ワットより小振りだが、類似点が多く、「東のアンコール・ワット」とも言われる。モデルとして、先行してつくられたのではないとも言われる平面型寺院。ヒンドゥー教寺院として建造されたが、仏教のモチーフをあしらった彫刻も多い、崩壊が激しく修復されないまま放置され、ジャングルの中に静かに佇む。形あるものは壊れ、常なるものはなし。廃墟の向こうから、諸行無常の鐘の音が聞こえて来そう。

昼食のため市内に戻る。道の脇に土管やコンクリ柱など、コンクリートの二次製品。下水管の整備中か？ガソリンスタンドがあり、走っている車は 現代やトヨタが目につき、レクサスも。広い平野の乾いた田圃を水牛で耕作、機械を買えない農家の米の収穫は 1 ヘクタール 2 トン、タイやベトナムは 4 トン、日本は 5 トン。技術と灌漑、機械化の問題か？ 主食は米で薪と炭で炊く。他にキャッサバ、タロ芋も主食。ココヤシ、カシューナッツも栽培、農業と観光が主産業。シュムリアップから首都プノンペンまで車で 6 時間、飛行機で 40 分、雨季にトンレサップ湖を高速船で走ると 2 時間。車とバイクが主たる移動手段。バイクはペットボトルで、車はスタンドでガソリンを買う。ハンモックで午睡する者もいれば、街角でシラミ取りを生業とする者も。火焰樹の花の紅が目染みる。

熊本の人達が寄付した熊本小学校がある。子供達はバイクで、自転車、徒歩でお昼を食べに家に帰る。門の外に食べ物の屋台も。20 年前のツアーはイオン環境財団の主催でカンボジャに小学校を寄付、その開校を祝うツアー。あのさくら小学校も健在だろうか？ レストランには東南アジア式手動ウォシュレット。水栓の先にプラスチック製のホースが伸び、先端のノズルの把手を握ると水が勢いよく噴射され、お尻を洗う仕組みだ。崩れ落ちた古さつに艶やかな蝶が舞い、鮮やかなトカゲが走る。

田舎の結婚は見合、都会は恋愛、いずれにしろ占いをし、止めることも。結納は都会は 100 万円、地方は 2、30 万円、16 才で結婚、17 才で出産も。30 才までに結婚するが、

婿入り婚が多い、離婚も多いとのこと。小学生の就学率は97%、中学72%、高校65%、大学15%、医者、建築、工学が人気で、法学、経済学、金融学も人気という。運転免許制がないので中学生がバイク通学、2、3人乗りも。校庭にバイクの列。広い敷地にホテル風の建物の群れ、市役所だという。同じような建物がヒンズー博物館。昼食後オールドマーケット観光。マーケットを二分する川は澱む。観光後アンコールクッキー店でショッピング、その後空港へ。18:20 シェムリアップ発、19:35 ホーチミン着、00:05 ホーチミン発、08:00 成田着、5時間55分のフライトで長旅は終わる。(完)

◎歌舞伎の楽しみ方・東大三鷹クラブ第148回定例懇談会のご案内

私が三鷹寮に入ったのは「三鷹国際学生宿舎」として新装開店して間もない平成7年のこと。まだ旧寮時代の空気が残っていた時代でした。新寮の各フロアには交流のためのラウンジが設けられていますが、誰が声を掛けるといってもなく集まって酒肴持ち寄りで即席の宴会が毎夜のように開かれていました。国際学生宿舎に生まれ変わったため留学生も多数入居しており、時には「国際会議」に発展することもありました。幸か不幸か、私の部屋はラウンジの真正面にあり、外出するたびにラウンジの前を通らざるを得ない。そんな事情もあり(?)、連夜の宴に足繁く通うことになったのはいい思い出です。このラウンジの常連の一人に狂言を趣味としている同級生がいました。ラウンジの住人は彼のことを「狂言師」と呼んで親しんでいましたが、まさか「狂言師」ではなく私の方が伝統芸能に関わる仕事をするようになるとはその当時誰も想像しなかったのではないのでしょうか。

さて、現在の日本を眺めてみると、急速に国際化が進展しています。今年開催されたラグビーワールドカップ、来年開催される東京オリンピック・パラリンピックを一つの契機として官民ともに訪日外国人向けの事業が盛り上がってきています。中でも日本文化を様々な視点から外国人向けに紹介しようという機運が高まっており、伝統工芸や舞台芸術から生活文化や食文化など新旧を問わない幅広いジャンルを世界に向けて発信する試みが展開されています。オリパラのホスト国である我々日本人も今一度振り返って自国の文化を見てみると、存外、知らないことが多いことに気付かされます。改めて日本文化を見直す良いきっかけではないのでしょうか。私は現在国立劇場で団体観劇の営業業務に従事していますのでユーザーからご意見をいただく機会も多いのですが、外国人を連れていきたい、外国人に紹介するために勉強したいという方も多くなってきているように感じます。

歌舞伎は、能楽や文楽と並んで早くからユネスコの世界無形文化遺産にも登録されているように、日本の代表的な伝統芸能の一つです。テレビなどの映像での鑑賞も含めると、一度は観たことがあるという方も多いでしょう。しかし、歌舞伎について外国人に説明するとなるとなかなか難しいのではないのでしょうか。そこで、今回は歌舞伎の約束事など基本知識や歌舞伎の楽しみ方をご紹介します。国際化社会におけるトークのレパトリー拡充の一助としていただければ幸いです。

(今回の案内は、本人に丸投げしてしまいました。新寮になってからの若い皆さんも「新年会」を兼ねて、参加されては如何でしょうか。…干場)

日 時 : 令和2年1月30日(木) 18時30分~21時

場 所 : 学士会館本館 301 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)
講 師 : 西沢 文孝 独立行政法人 日本芸術文化振興会 国立劇場 (1994 年入寮)
会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み。寮生・OB 学生無料)
二次会 : 別途 有志による二次会を、すずらん通の中国料理店 SANKOUEN にて開催予定
定 員 : 40 名 (先着順: 定員を超えない限り特に連絡は致しません)
申込先 : FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182
(有) ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎久し振り華屋与兵衛で二次会、体制比較も！

12 月 7 日 (土) 朝、久し振り半生の出発点となった三鷹の寮に。毎年恒例、教養学部と三鷹市共催「三鷹市民と東大三鷹国際学生宿舎生の集い」へ、太田邦史教養学部長による「皆さんにもある遺伝子スイッチの話」、遺伝子が全てではなく、食料事情やストレスなどの環境が遺伝子に影響を与え遺伝子スイッチが起こり、形質が進化、後世に伝えられる。自然界においても「ピンチはチャンス」であると。

アルコール抜きの「市民と宿舎生との交流会」後、華屋与兵衛で二次会。1 年先輩、元国際バンカーの辰さん入れ 11 人、急な思い付き、しかも昼にしてはよく集まり、半分はソフトドリンクで楽しく交流。岡田先生も、九州と東北・北海道はアルコールに強い遺伝子を持つ人が多く、関西は少ないという。量子コンピューターをやりたいと、受験で入った瀋陽出身の漢族の男の子、隣に新疆出身、欧米からの留学生かと思紛う、色白の北京大学からの交換留学生の女の子、仲良く語り合う。🐙 が元毛沢東主義者で文化大革命万歳だったと自己紹介。「エー！」と呆れ顔。「中国は共産党の見解しか報道出来ないけど、日本も資本家が経営権握ってるから金持の意見を報道するでしょう！」とメディア論も。支払いは🐙 の、見返りの期待出来ない次代への先行投資。関係が深まり、彼らとその頭脳とネットワークを生かして、ワールドワイドに活躍、社会貢献してくれれば、無上の喜び。

参加者は、韓東学 (2018・理 I 工学部物理工学科進学予定・中国 遼寧省・東北育才学校)、ダン チャン ジャ バオ (2018・理 I 電子情報工学科・ベトナム ハノイ)、齋藤聖仁 (2018・理 II 工学部化学システム内定・北海道・北嶺)、菅野晃太 (2018・理 I ・北海道・旭川東)、Dhruv Iyer (2019・理 I ・インド ムンバイ)、エハリマン (2019・文 I ・中国 新疆・北京大学)、旭博佑 (2019・理 I ・福岡・久留米大学附設)、田中隼 (2019・理 I ・鹿児島・ラサール)、田名部琉 (2019・文 II ・京都・嵯峨野)、OB が🐙 (1966・文 I 法学部・秋田・能代)、辰紘 (1965・文 I 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)。

◎結びに代えて・・・全共闘は「世界から飢餓と貧困を撲滅する！」

和食レストラン華屋与兵衛も傘下に擁する日本一の外食産業、ゼンショーの創業経営者小川賢太郎君も、奥さんも東大全共闘の仲間。「世界から飢餓と貧困を撲滅する！」という社是は全共闘運動の賜物。中国黄土高原緑化で成果を上げる NPO 法人「緑の地球ネットワーク」の創始者、三鷹寮同期の高見邦雄君 (S41 年入寮) と品川駅上の広い社長室に小川君を訪れ協力を得る。その後東大の卒業生室にも紹介、億円単位の寄付に協力して貰う。次回の華屋与兵衛三鷹店での寮生との交流会に「招待」したい。日本と世界の若き頭脳と稀代の名経営者が膝突合せ議論するのはお互いにとって得るものが大。(読了多謝、再見！)